

石神の丘美術館企画ギャラリーではシリーズ企画「North Wind Project／北から吹く風」の第3回展『〈目と手でみている〉菊池咲 小松崎晃 千葉幸子』を開催中です。

ギャラリーを一回りした後、気持ちがとても明るくなっていました。それから〈花とアートの森〉を歩きました。いつもより足が軽く感じられました。美術にはこういう力があるんだ、と改めて気づいた経験でした。

〈花とアートの森〉は森の中に草花が溢れ、三沢厚彦さんのアニマルズシリーズと西野康造さんの動く彫刻がそれら自然の緑と調和してい

ます。その対照が〈花とアートの森〉の特徴であり、大きな魅力です。自画自賛するようですが、国内でも有数の野外彫刻美術館とっていいでしょう。

アートゲートに戻った私は、再び企画ギャラリーの作品群を観ました。さっきとはまた違った経験をしました。最初に観たときは造形の獨創性や色遣いなどに目を奪われましたが、今度はギャラリーが和やかな笑いに満ちているのです。それぞれの絵がクスクスと、あるいは賑やかに、笑っているのです。私はその声なき笑い声に包まれ、しばし時間が経つのを忘れました。

道の駅 石神の丘からのお知らせ

産直 石神の丘 9:00-18:00
TEL 0195-61-1600



リンゴの季節がやってきました

秋から冬にかけて、さまざまな品種のリンゴが入荷。甘み、酸味、歯ごたえなど違いをお楽しみください。

レストラン 石神の丘 10:30-18:00 (L.O.17:30)
TEL 0195-61-1602



10/1(金) 新発売
いわてまち産リンゴと
ブルーベリー
岩泉ヨーグルトの
地底湖パフェ
1日限定15食 550円(税込)

龍泉洞の地底湖をイメージ。ホイップ・ブルーベリーソース・自家製リンゴのアイスクリームを岩泉ヨーグルトでコーティング。仕上げはリンゴのコンポート。



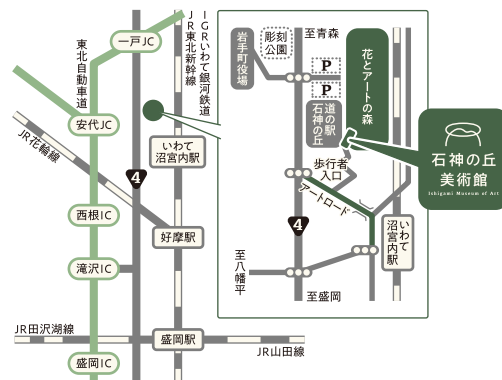
テイクアウトメニューについてはこちらをチェック!



石神の丘
美術館
Ishigami Museum of Art

〒028-4307
岩手県岩手郡岩手町大字五日市10-121-21
TEL 0195-62-1453 FAX 0195-62-1477
U R L <https://ishigami-iwate.jp>
Twitter https://twitter.com/ishigami_muse
Instagram https://instagram.com/ishigami_muse

新型コロナウイルスをはじめとする感染症の予防および拡散防止のため、ご来館の際はマスクの着用、検温、手指消毒、入館者記録への記入をお願いしています。



Ishibi



Ishigami Museum of Art

石神の丘美術館通信 イシビ

2021.10 Vol.216



三沢 厚彦 《Animal 2015-05B5(ウサギ)》

「〇〇の秋」。みなさんは何を思い浮かべますか?芸術、運動、食欲、読書など人によってさまざまでしょう。ここ、石神の丘美術館では芸術はもちろんのこと、運動の秋も楽しむことができます。野外エリア〈花とアートの森〉は一巡り30~60分。距離数で言うと1.5~2kmです。ゆるやかな傾斜もあり、こちよい疲労感を味わえますよ。毎日…は大変ですが、定期的な散策は健康づくりにつながる間違いなしです。リピーターの方には〈花とアートの森 年間パスポート〉もおすすめです。

North Wind Project／北から吹く風 Vol.3

目と手でみている 菊池 咲 小松崎 晃 千葉 幸子

2021年9月11日(土)～10月31日(日)

シリーズ企画「North Wind Project／北から吹く風」の第3回展を開催します。このシリーズは、岩手にゆかりある若い世代の美術家をゆるやかなテーマのもとに紹介するものです。今回は、菊池咲(奥州市在住)、小松崎晃(盛岡市生まれ・神奈川県在住)、千葉幸子(盛岡市在住)の作品をとりあげます。今月号では、出品作品とともに作者の言葉をご紹介します。

開館時間 9:00～17:00(最終入場 16:30)

休 館 日 月曜日(月曜日が祝日の場合その翌日)

観覧料金 300円／高校生以下無料 ＊〈花とアートのある森〉共通観覧券 700円

■ 出品作家によるギャラリートーク 10月30日(土) 13:30～

(当初、9月11日に開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期しました)



菊池 咲 Kikuchi Saki

画面の中で動物たちが「生きていること」を大切に制作している。動物に感情移入し、人間側に引き寄せて考えることをせず、感情や思考は排除し「ただそこにいること」を目指している。

狩猟と標本作りを始めて3年になる。「生」を考えたとき「死」について考えることを避けられず、考えているうちに狩猟に辿り着いた。身近な生き物を自分で解体して食べ、皮は画材やはく製に、骨は骨格標本にして蓄積。生活の一部とし、自分の制作や誰かの研究の役に立てばいいと思う。



きくち・さき
1986年、岩手県生まれ。
2012年、東北芸術工科大学大学院芸術工学研究科修士課程修了。
奥州市在住。



《タヌキたち》2021年



《視線》2015年

小松崎 晃 Komatsuzaki Akira

今展にあたっては、岩手の風景を描いてみたいと思った。岩手町沼宮内をふるさとする母の「岩手山は、堂々として立派」という言葉が心に残っていて、2019年夏、石神の丘を訪れた。実際に登って現れた雄姿は、母の言葉以上に堂々としている。その感動とスケッチをもとに、岩手山と姫神山の作品を制作した。

今振り返れば、自分が鳥になったかのような気持ちで描けたのがよかったのだと感じる。石神の丘からの眺めは、そういうものをふと想起させてくれたのだろう。



こまつざき・あきら
1982年、岩手県盛岡市生まれ。2010年、武蔵野美術大学大学院造形研究科博士後期課程造形芸術専攻単位取得退学。神奈川県鎌倉市在住。



《岩手山》2021年



《姫神山》2021年

千葉 幸子 Chiba Sachiko

毎日、犬の散歩をしていると、ゆっくりと季節によって変わっていく自然の様子を感じ取ることができます。一見なんの変哲もないただの草木も、光のあたり方や季節の気候によって、とても面白く不思議な色や形に見える瞬間があり、いつもの風景も新しい景色になります。新しく見える景色は私に力を与えてくれます。そんな一瞬を残したく描いております。

ちば・さちこ
1977年、岩手県盛岡市生まれ。2009年、岩手大学大学院教育学研究科教科教育専攻美術教育専修修了。盛岡市在住。



《梅雨晴れのひかり》2021年